

高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20
 高知県地域福祉部障害保健福祉課内
 高知県精神保健福祉協会
 電話：088(823)1111・088(823)9669(直)
 FAX：088(823)9260
 E-mail：kochi-mhwa@s2.dion.ne.jp
 発行人 井上 新平 編集人 谷 晃

第241号

新年度総会を終えて

高知県精神保健福祉協会会長 井上 新平

さる4月28日、平成21年度の総会を無事終え、引き続き6月4日の理事会で本年度の活動方針を決定いたしました。本年度も引き続き、広報、県大会、総合福祉、調査研究、研修、基金管理運営の6つの事業を展開していきます。皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。以下、各事業について簡単に紹介いたします。

広報については、本年も「高知 精神保健」を発行します。県大会関連記事、県内トピックスなどを中心に新鮮な情報の発信に努めます。また本年は念願のホームページを立ち上げることにしています。これにより更に充実した情報を提供できればと考えています。

県大会は本年10月29日に「健康長寿をめざして」のテーマで開催します。特別講演には東京都健康長寿医療センター理事長の松下正明先生をお迎えし、県関係者が事例発表を行います。

総合福祉では、本年も卓球大会・ソフトボール大会・文化交流会を主催します。例年病院、施設など多くの団体から参加をいただき、利用者にも満足していただいておりますが、本年はさらに多くの当事者のニーズに応えるために、競技の種類を増やすなど検討します。

調査研究では、統合失調症の患者さんの受診状況

をテーマに取り組みます。これは全国調査の一環で、発病から受診までの時間が長いと治療効果に影響するということで、いかに治療の開始の遅れを克服するかという課題に挑戦します。県内の病院の協力をもとに進めます。

研修では、医療機関、サービス機関、相談事業所、行政などいろいろな機関に働く職員を対象にした研修会を行います。8月から12月まで合計5回シリーズです。また地域研修会・交流会を四万十町方面にて開催予定です。

基金管理運営では、本年も県内の社会復帰施設への貸付事業を行います。これまでの融資額は1件当たり100万円～200万円で、年度の変り目の資金不足を乗り切るなどの目的に利用されることが多く、大変感謝されています。

その他、協会としては将来の活動の方向性を探るために、関係機関との話し合いを続けています。県内には多くの機関がありますが、個々に活動している状況で、協力連携が求められています。協会がその連携の推進役になるべく話し合いを進めます。

以上簡単ですが、本年の活動予定を紹介しました。今後とも協会へのご支援をよろしくお願いいたします。

目次

新年度総会を終えて	1
豪州との交流に基づく全国精神障害者作品展	2

高知県統合失調症研究会	5
精神保健福祉卓球大会の結果について	6

豪州との交流に基づく全国精神障害者作品展 「心の世界－作品を多角的にとらえる」

全国精神保健福祉連絡協議会は、厚生労働省平成20年度障害者保健福祉推進事業をもとに「精神障害者の芸術作品の発掘・調査と普及啓発への活用に関する研究事業」を実施した。この事業は精神障害者の芸術活動の成果のうち、「精神保健医療福祉の改革ビジョン」に示された国民意識の改革に資する作品の情報を全国規模で収集し、そのデータベース化と分析を行うことを目的とした。また、展覧会を開催することで、精神障害者の芸術活動を支援していく機運を醸成することを目的とした。本稿では、この事業の一環として実施した展覧会と、会期中に開催された3つの行事について紹介する。

I. 展覧会

心の世界 －作品を多角的にとらえる

精神障害者の芸術活動を支援していく機運を醸成することを目的として、展覧会「心の世界－作品を多角的にとらえる」を平成21年2月4日から22日まで、京都国際交流会館において開催した。前期（2月4日～2月15日）は、豪州カニンガム・ダックス・コレクションの作品を展示した。また昭和初期からの作品の特別出品、そして研究事業の応募者の作品などを展示した。カニンガム・ダックス・コレクションの作品は、作者の人生と制作の関係がわかる展示であり、日本の作品は時代の流れや表現の変化を概観できる展示であった。後期（18日～22日）は、カニンガム・ダックス・コレクションの作品を撤収し、応募作品の展示を増やした。また特別出品として青南病院で制作したタペストリーを展示した。別室では、全期間にわたって、スケッチブック、ノートなど、手に取って見ることのできる参考作品、そして出版物などを展示した。延べ来場者数は1,411名であった。来場者のアンケートからは、今回の展覧会のような企画を数多く開催していくことは、精神障害についての国民の理解を深めるきっかけとなることがうかがえた。今回の展覧会は、精神障害者がその人生の中で生みだした芸術作品を理解し、社会に活かすという、新しい試みの第一歩となった。



ダックス・コレクションの展示



特別出品作品の展示（左から3点は応募作品）

Ⅱ. 一般向け研究成果報告会

「心のバリアフリーを すすめるために」

2月8日には、国立精神・神経センター精神保健研究所精神保健計画部の主催、財団法人精神・神経科学振興財団の共催による「精神保健医療福祉の改革ビジョン成果に関する研究」の一般向け研究成果報告会が開催された。吉川武彦（中部学院大学大学院教授、全国精神保健福祉連絡協議会会長）の講演「こころのバリアフリーをすすめるために」のあと、「地域住民における精神障害についての知識と意識」、「『精神保健医療福祉ガイドブック』の作成—当事者の積極的参加に向けたマスメディアによる支援のために—」、「精神医療メディアカンファレンスの試み」についての研究報告があり、参加者と講演者、報告者で意見交換を行った。参加者数は33名であった。参加者からは、精神保健の課題が見えてきた、報告会のテーマ自体がこころにバリアが存在することを示している、マスメディアの役割は重要である、などの意見があった。

Ⅲ. 記念講演会

「メンタルヘルスの 促進になぜアートが 重要なのか」

2月13日にはオイゲン・コウ博士（カニングム・ダックス・コレクション館長）による講演「メンタルヘルスの促進になぜアートが重要なのか」“Why is art important in mental health promotion?” が開催された。コウ博士は、メンタルヘルスの促進にアートが果たす役割として、レクリエーションやリラククス、精神医学的な評価の補助手段となること、エモーショナル・リテラシー（自分自身や他者の感情を理解する）を高めること、メンタルヘルスの問題への理解を高めていくこと、メンタルヘルスの関連施設で働く人たちが人間性を回復する上で重要であることなど、9つのポイントを挙げ、カニングム・ダックス・コレクションの作品などをもとにわかりやすく話し、「私たちの任務は、希望をつくることだ」と結んだ。来場者は35名と少なかったが、会場は、始まりから終わりまで静かな熱気に包まれ、講演後は、予定の時間を過ぎるまで質疑が続いた。



応募作品の展示（左端は特別出品作品）

IV. シンポジウム

「死にたくなって、 つよくなる」

2月20日には、全国精神保健福祉連絡協議会と国立精神・神経センター自殺予防総合対策センターの共催によるシンポジウム「死にたくなって、つよくなる－生きることにしんどい人が、大切なことを伝えてくれる－」が開催された。シンポジストは、岩室紳也（地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター）、松本俊彦（国立精神・神経センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター）、大下大圓（飛騨千光寺）、東野健一（画家、絵巻物師）の4人であった。前半はシンポジストからの話題提供で進み、岩室は、若者の性の問題から始まり、今の若者にとって人とつながることが大きな課題になっていると述べた。松本は、「自分を傷つけずにはいられない人たち」の理解と支援のあり方について、精神医学の立場から述べた。大下は、寺院を社会資源ととらえて、研修や相談活動を展開してきた経験から、「苦しみの意味」「生きる」「祈り」について話した。東野は、インド・西ベンガル州で古くから伝わるポトゥア（絵巻物師）の人達の手法を使い、語り歩いてきた経験を踏まえて話した。後半は、シンポジストと来場者全体で、流れゆくままにゆっくり話し合い、東野さんの紙芝居のあと、大下さんの声明のあと、シンポジストが来場者のお見送りをした。4時



会議室での展示

間という長丁場のシンポジウムであったが、今後の市民公開講座や講演会のあり方に貴重な示唆が得られた。

竹島正(全国精神保健福祉連絡協議会副会長)



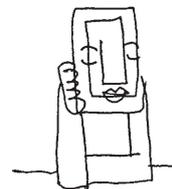
特別出品作品のタペストリー

「精神科医療の真のパートナー」を目指して

精神科領域に特化した企業としての専門性を高めていくとともに
 パイオニア・オリエンテッドの企業活動を推進してまいります。

吉富薬品株式会社
 大阪市中央区淡路町2-5-6 <http://www.yoshitomi.jp/>

たとえば、
 ナイチンゲールだったら
 どうするだろう、
 と考えてみる。



彼女の直筆の文字を使った
 このマークを見るたびに、いつも、
 自分たちに問いかけています。



ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ
<http://www.eisai.co.jp>

高知県統合失調症研究会

会長 戎 正司(芸西病院)

当研究会も発足以来実に30回を越え、31回の長きにわたって開催してまいりました。

当研究会は、①統合失調症の新知見等の最新情報の交換②日常の臨床での疑問点、改善点等の情報交換を目的として設立されました。医師だけでなく、コ・メディカルの方々にも幅広くご参加いただき、今日まで続いてまいりました。

年2回の開催を行っており、1回は演者を招聘しての特別講演、1回はテーマを決めての症例報告、文献紹介を県内の医療機関から報告いただくというスタイルを取っています。

発足当初は、高知大学の井上 新平 先生に会長を、続いて棧橋みどりクリニックの池田 友彦 先生を会長に、そして現在は、芸西病院の戎 正司 先生に会長を引き受けていただいております。

当初は、世話人も医師のみでしたが、広く医療従事者の皆様のリクエストを集めようとの趣旨で看護師・精神保健福祉士・臨床心理士の方々にもご参加いただき、広範囲かつ より関心のあるテーマの設定に努めています。

おかげさまで、毎回100名前後のご参加をいただいております、その内訳は、医師2割、コ・メディカル8割程度の比率になっています。今後は、会場で、参加



第31回高知県総合失調症研究会
平成21年4月10日 高知新阪急ホテル

者の関心事のアンケートを取るなど、工夫をして、より、参加いただきやすいものにしていこうと考えております。

過去の講演の内容は、「統合失調症の地域リハビリテーション」「職業リハビリテーション」「統合失調症と暮らし」「家族支援」「認知行動療法」など統合失調症の治療のみでなく、周辺知識の啓蒙にも努めてまいりました。

前は、高知大学の 加藤 邦夫 先生に「統合失調症の基礎」についての講演を賜り31回を終了いたしました。統合失調症は、まだまだ未知の領域だと思われ知られる講演でした。

32回講演について、現在準備中です。皆様方の興味や関心の高いテーマで開催させていただきたいと考えております。多くの皆様方の参加をお待ちしております。

からだ・くらし・すこやかに



大日本住友製薬

www.ds-pharma.co.jp

訃報

当協会顧問（元副会長） 腰山静雄 氏におかれましては、平成21年6月28日御逝去されました。

謹んで哀悼の意を表します。

高知県精神保健福祉協会

平成21年度 高知県精神保健福祉卓球大会の結果について

高知県精神保健福祉協会 総合福祉部

- I と き 平成21年6月23日(火)
- II ところ 高知県民体育館(高知市棧橋通2丁目)
- III 日 程 開会式 9:00 試合開始 9:20
閉会式 15:10

IV 参加団体 15施設
 土佐病院、海辺の杜ホスピタル、藤戸病院、同仁病院、メンタルクリニックちかもり、高知ハーモニーホスピタル、細木ユニティ病院、石川記念病院、南国病院、高知ダルク、施設連合、一陽病院、田辺病院、芸西病院、棧橋みどりクリニック

V 個人戦
 男子個人戦優勝 …………… 土佐病院
 男子個人戦準優勝 …… 棧橋みどりクリニック
 女子個人戦優勝 …………… 海辺の杜ホスピタル
 女子個人戦準優勝 …………… 細木ユニティ病院

VI 団体戦

(Aゾーン)

	土佐A	ハーモニー	藤戸
土佐A		5-0	5-0
ハーモニー	0-5		3-2
藤戸	0-5	2-3	

(Bゾーン)

	同仁	南国	芸西
同仁		4-1	5-0
南国	1-4		2-3
芸西	0-5	3-2	

(Cゾーン)

	石川記念	一陽	田辺	土佐B
石川記念		2-3	4-1	
一陽	3-2			0-5
田辺	1-4			0-5
土佐B		5-0	5-0	

(Dゾーン)

	ダルク	海辺の杜	ちかもり	細木ユニティ
ダルク		1-4	0-5	
海辺の杜	4-1			4-1
ちかもり	5-0			1-4
細木ユニティ		1-4	4-1	

● 団体戦の結果

優勝 土佐病院 A 第3位 同仁病院
 準優勝 海辺の杜ホスピタル 第4位 土佐病院 B

